



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (11月14日)

1. イラン産原油の輸出量 (14日付イラン・デイリー紙)

IEAによれば、西側による制裁にもかかわらず、中国および韓国による購入により、イラン産原油の10月の輸出量は7カ月ぶりに上昇し、日量130万バレルであった。生産量は7万バレル上昇し、日量270万バレルである。ロイターによる100ドル/バレルとした計算によると、イランの先月の追加的な石油収入は9億米ドルとなる。IEAによれば、イランの海上備蓄量は4月の2,500万~3,000万バレルから、10月の1,300万バレルに半減している。

2. 中国企業によるイラン産コンデンセートの購入 (14日付テヘラン・タイムズ紙)

中国の騰龍アロマティクス社 (Dragon Aromatics Co., Ltd) は、イラン産コンデンセートを試験的に100万バレル購入する。

3. 輸出入規制品目からのコンピューターの除外 (14日付イラン・ニュース紙)

ITPO (Trade Promotion Organization of Iran) 輸出入規制局のアッバースプーリー局長は、輸出入規制品目から、コンピューターおよび関連機器を除外すると述べた。

4. 輸入禁止品目からの自動車の除外 (14日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

先週、工業省は全ての自動車が輸入禁止となると発表した。ITPO (Trade Promotion Organization of Iran) のハミード・サフデル (Hamid Safdel) 長官は、自動車を輸入禁止品目から外すと述べ、最終決定はなされていないとした。

5. フィリピンとの経済関係 (14日付イラン・ニュース紙)

11月13日に、モラーディー戦略計画・監督担当副大統領は、フィリピンのドミンゴ商業産業大臣と会談し、両国経済関係を発展させる方法について協議した。フィリピンはイランから8億5,000万米ドルの石油・石油関連商品を輸入しており、イランはフィリピンから主にバナナを輸入している。

6. 第二次補助金改革の延期 (14日付イラン・ニュース紙)

イラン国会のモガッダム予算計画委員長は、エネルギー価格を上昇させ、現金給付を増加させる第二次補助金改革に関し、15%以上のインフレを引き起こすものだと、2013年ま

で延期すると述べた。

7. イスラーム開発銀行による排水処理プロジェクトへの資金供与（14日付テヘラン・タイムズ紙）

国家水・水処理会社副社長は、イスラーム開発銀行がイランの排水処理プロジェクトに127億米ドルの資金供与を行ってきたと述べた。

8. 来年の関税収入（14日付テヘラン・タイムズ紙）

来年〔イラン暦1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕の関税収入が110兆リヤル（約90億米ドル）になると関税局長が発言し、為替価格と輸入条件に依存するとした。イランの石油収入の37.5%は石油・ガス開発および国家開発基金に回され、62.5%が一般歳入に計上される。